

演題7

乳歯切削エナメル質に対するレジン の接着性 (第5報) 光照射時間の影響

細矢由美子, 池田靖子, ○高風亜由美,
安藤匡子, 後藤譲治
長崎大・歯・小児歯

<目的>: 乳歯切削エナメル質に対するレジンの接着性に及ぼす光照射時間の影響について観察した。

<材料並びに方法>: 資料としては、冷凍保存した牛下顎乳切歯60歯の唇面エナメル質を用いた。ボンディング材とコンポジットレジンには、クラレ社製 Photo Bond と Photo Clearfil A (US) を使用した。エッチングは、40%正磷酸ゼリーで30秒間行った。光照射は、ボンディング材に対して10秒間、コンポジットレジンに対して20、40、及び60秒間行った。サーマルサイクリング群と非サーマルサイクリング群とを設けた。サーマルサイクリング群においては、60℃と4℃の水中で10,000回サーマルサイクリング試験を行った。剪断接着強さを測定し、剪断接着試験後のエナメル質面とレジン面をSEMで観察した。

<結果及び考察>: 1) 非サーマルサイクリング群並びにサーマルサイクリング群ともに、剪断接着強さは光照射時間が40秒と20秒間並びに40秒と60秒間で有意差がみられ、40秒の場合が高かった。さらに、60秒と20秒間にも有意差が見られ、60秒が高かった。2) 光照射時間別に接着強さを非サーマルサイクリング群とサーマルサイクリング群間で比較すると、両群間に有意差がみられたのは、光照射時間が20秒の場合のみであり、サーマルサイクリング群の方が高かった。3) 剪断接着強さは、必ずしも光照射時間の延長に伴い増加するものではなかった。4) 光照射時間が20秒と短い場合には、剪断力によりエナメル質と接する部位のレジンが容易に破折し、接着強さは低かった。

演題8

小臼歯における中心結節の 早期発見と管理

○大谷裕子・野中和明・松本敏秀・
柳田憲一・後藤哲哉・佐々木康成・
中田 稔
九大・歯・小児歯

小児歯科の日常臨床において、小臼歯の咬合面中央部に、円錐状あるいは棒状の形態をした中心結節にしばしば遭遇することがある。この異常結節は、時としてその内部に歯髄を有するものもあり、その萌出過程で破折し、自覚症状を伴わず歯髄感染を惹起していることもある。このような場合、歯根は未完成な状態であることが多く、その対処法も容易なものではない。したがって、破折する前に初診および定期診査時のレントゲン診査にて、早期に発見し、早期の対応が必要であると考えられる。

そこで、当科外来における中心結節を有する症例の臨床的対応法について報告する。臨床的対応法は発見の時期により、以下のように大別している。

- ①口腔内萌出前に発見した場合（パノラマ断層写真を含む種々のレントゲン検査にて）：対合歯との咬合により結節の破折が生ずる可能性を保護者に説明し、萌出直後より結節部の削合を適宜開始する。また、結節の形態によっては、アイオノマーセメントにて結節基底部に填塞を行い補強をはかる。
- ②萌出直後に発見した場合：発見と同時に保護者に説明を行い、①に準じた治療を行う。
- ③結節の破折により、歯髄炎を惹起した場合：根未完成歯の歯髄処置としてフランク法に準じた歯内療法を行う。